

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100724		
法人名	NPO(特定非営利活動)法人 まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホームまごころの家		
所在地	島根県松江市古志原1-14-1		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokounyuu.jp/katgosip/information/public.do?JGD=3270100724&SCD=320&PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人に目を向け、女性であれば女性らしく、男性であれば男性らしくその人がたとえ寝たきりであっても、ベッド上ではなく、美しく生き活きと生活して頂けるように支援している。食事は三食手作りし、季節の旬のものを沢山取り入れ、毎日の食卓が豊かで楽しくなるようにしている。日常に笑いが沢山あり、「今日が一番いい日」で、朝を迎えたら、昨日よりいい日になるように活気のある生活を地域、家族、職員と共にすごせている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

重度な利用者が多くなってきているが、利用者にとって今日が一番いい日にするのはどう支援したらいいかを日々考えながら取り組んでいる。外出を減らさないために外回りの改装を行い天気の良い日には日光浴をしたり、バス旅行や個別の外出支援をしている。ボランティアの協力で陶芸教室を開催し近所の人や以前利用していた家族にも参加してもらったり、高齢者を抱える家族からの相談を受けるなど、地域とのつながりを大事にしている。管理者、職員共に介護支援の力量を向上させる努力を惜みず、今年度は介護福祉士の資格を4名受けて全員合格している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念がある。日々振り返り理念の意味をスタッフ同士で確認しあいケアに活かしている。地域密着を根ざすサービスを提供出来るように努めている。	毎月副理事長が理念に基づいて原点を忘れず全員が共有すべき議題について講演し、改めて自己を振り返る機会を作っている。職員同士も日々よりよい支援を目指し確認しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や季節の手作りおやつなど利用者と共にご近所へ持って行く。地域から野菜の差し入れ、畑作りの手伝い、ウエスなど持って来て頂ける協力がある。ホームでの催しものを案内し来て頂いている。	手作りのおやつを届けたり野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。協力してもらうことばかりでなく、協力できることは何かを話しあいながら関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症を詳しく知るための意見交換などを行っている。又、地域で不安を抱えている高齢者家族の提供を受け同席している支援センター職員に聞いてもらえるようチャンスを提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践できるものはすぐに取りかかっている。出来なかったものに対しては、そのままにせず、出来る方法論を会議等で話し合っている。又、テーマを決め継続し議題に取り組める内容にしてある。	定期的開催し活発に意見交換をしている。メンバーには退去された利用者の家族、地域の高齢者を抱えている家族の同席などもあり、介護を通して不安や問題を考える場もなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加してもらっている。又、問題が生じたとき、わからない事例があった時などは、行政に電話で相談させてもらっている。	研修の情報をもらったり地域の防災について事業所の実情を伝えたり、相談、疑問のある事には助言を受けるなど連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新年度に自施設研修計画を立てている。年度初めに必ず全スタッフで話し合っている。	年度初めに年間計画を立て、月ごとに二人一組の担当を決めて資料を作成し研修を行っている。自ら資料を作ることで有意義な勉強の場となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自施設研修で身体拘束研修が終わった翌月のテーマに決めてある。事前に高齢者虐待のテーマに取り組むスタッフを決めて職員会議内で研修をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なケースがあれば管理者が対応しているが今までそのようなケースは無い。講演会等参加するように努め、振り返りが出来るように心得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には本人家族には必ず面接と施設見学を徹底している。話し合いが出来る機会を多く作り入退所について理解を促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重度化が進み本人の声としては、あまり聞かえてこない。カンファレンスには遠方の家族以外は必ず参加して頂き意見を言いやすく聞かせてもらえるチャンスを作っている。苦情担当員を設けている。	利用者との関わりの中での気づきをすぐに改善に結びつけ、ミニ菜園やスロープを作った。家族の面会時や電話などで意見を聞いている。利用者の姪が役員を受けてくれるなど、良好な関係ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議でスタッフ全員が意見を言えるように会議を進めている。別に、スタッフ会議を設け常に事業所の理念をもとに話し合え、運営に関しても上司に伝えることができるようにしている。	職員会議などで自由に意見が言えるように工夫し職員の意見を聞いている。事務所の使い易い改装など話し合いながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通し報告を受け常時話し合いを行っており期末手当を支給できるように話し合っている。又、家族等から寄せられる感謝の声など直接伝え職員の向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月実施している職員会議・ケアカンファレンス等又、昼食をともにする事で職員それぞれの力量等の把握に努めている。県主催の研修参加、他研修情報があれば適正受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会の他に、数か月に1度スタッフも交えての交流会を設けている。現在12ホームと輪番制で行い情報交換、職場での悩みなど気軽に話せる会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	医師や訪問看護師との連携を密にし、本人の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝え、相談しながら声掛けの工夫、薬の処方なども考慮の上接するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的ケアカンファレンスを可能な限り家族参加してもらいケアマネを中心に行っている。些細なことも家族のいこうに沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護師にも相談、又は、介護福祉用具業者とも相談をし直接、あるいは間接的に一番良いと思われる方法を家族に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ること出来そうにないことを見極め手や口を出さないように見守ったり一緒に行うように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や生活用品の管理などを協力が出来るところはお願している。足浴、ドライブ、更衣、食事介助など積極的に協力して下さるご家族も数人いる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の生活歴を把握、又家族にも情報を提供頂き本人が望むところなどに出かけたり、ホームに電話をかけてもらったり、文通したりしている。	友達や昔下宿をしていた画家に代筆支援をして手紙を出したり、知人の来訪や幼な馴染みからの便りや電話がある。思いを知り「家に帰る作戦」をとり、近所の人に歓迎されて見違えるほど元気になった人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	音楽療法・美術教室・陶芸教室・お化粧品療法など利用者の興味のあることなど生活歴及び家族の情報から把握し支援提供するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者(死亡)家族にも運営推進会議に参加して頂いている。また、趣味の活動として、陶芸教室などにも参加して頂いている。ホームの毎月の様子は、ホーム通信を送付しお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報の提供により把握。本人の表情・行動を観察し言動に注意しながらカンファレンス等で検討している。	日常の会話の中のちょっとした言葉や昔の出来事の話聞き逃さず思いを引き出したり、表情や行動から思いを検討している。在宅時から猫の好きな人には猫との触れ合いを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の基本状況を活用。個別にケアカンファレンスを開き家族・本人・職員で意見交換をするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングやカンファレンスの他必要が生じた場合は速やかに開催しその状況により家族・看護師・PT・その他関係者を招き検討の上介護計画を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から家族、又は本人の関係者からの意見を聞きスタッフとも話し合いの場を設け介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を大切に、日頃から利用者の日々の変化を見逃さない体制をとり原案を作成し、もう一度確認した上で最終的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録の時間以外にも常に利用者の状態について話し合っている。情報の共有にも努めている。ケアプランの見直しも都度行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合や住む地域により受診や入院時の付添を有償サービスにて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などにも出来るだけ地域の方にも来て頂き利用者も参加し交流を深め、ホームでの生活の様子を見て頂いている。又その時に築いたことなど教えてもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は従来から関係を大切にしている。定期的な往診と緊急時の往診場合によっては大きな病院受診が必要となった場合は紹介状を出し受診が速やかに行われるように支援がある。	緊急時は家族に連絡して対応している。主治医や訪問看護師にいつでも連絡して相談できる関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回訪問を受けている。利用者全員のバイタルチェック、又、利用者体調について不安を感じているスタッフについて相談にも応じている。又24時間対応で安心が電話でもつながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、有償ボランティアに登録しているスタッフが付き添いなどをして、医療関係者に細かい情報提供が出来るようにしている。常に入院中の様子をホームにて話し合い早期退院が出来るようにシュミレーションを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同意書を交わしている。早い時期から繰り返し話し合っている。必要性が生じた利用者には、家族看護師、ドクターと共に話し合い今後の方針を共有できるように努めている。	二人の人の看取りを行った。不安はあったが連携を取り合い最後まで支援をすることができた。日中であつたこともあり元看護師の利用者も立ち会い共有した。家族から感謝されたことは職員には貴重な体験となった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに従い緊急時連絡網にて備えは出来ているが応急手当については救命講習修了証はあるが、定期的に訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーも設置した。地域の防災講習に参加し、内容を職員会議で実践し周知した。ホームとして地域災害が発生した時の備蓄を検討中である。	東北地震、局地的水害を契機に、地震、水害等に対応するための第一回目の検討会議を行った。地域との連携も含めて推進して行く予定である。備蓄品も確保している。	今後の地域との協力関係作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に置き敬意を持った言葉や態度で接しながら時には親しみのある言葉使いで温かいコミュニケーションを心がけている。	職員は利用者を尊重した言葉や態度で接し、日々のケアを常に振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを伝えられる利用者にはじっくり話を聞き本人の希望に添えるように努めている。思いをうまく伝えられない利用者には声掛けをしながら本人の思いを汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	独り一人の生活歴・趣味等の把握に努めその希望に添うように支援している。今、何がしたいか自己決定が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧をしている。衣類は、自己決定を促すが、出来ない利用者には複数用意した中で選んでもらうか、その人に似合った衣類を居室担当が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように毎日料理の段取りから関われる利用者には一緒にしてもらっている。日頃から、会話の中で好物を聞いてりして食に対してリサーチをしている。	手作りの食事を大切に、栄養面もきちんと考え調理している。利用者に合わせて食べやすい方法で時間をかけて食事を楽しんでいる。利用者は食事で元気を取り戻している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者によっては水分量が決まっていることもあり、専用ポットなどで対応している。水分はレパートリーが多く、利用者のその時に飲めるように常に用意がしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない利用者は、スタッフが付添。それも出来ない場合は、口腔かぜで対応している。ブラシをかけたあとうがいが出来ない利用者は歯ブラシをうがい薬につけながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助でも出来るだけトイレにて排泄を促している。入所時は紙オムツ、リハパンだった数人の利用者はそれぞれ、紙オムツがリハパンになり、リハパンから自分の下着に改善された。	排泄はトイレで、をケアの大切な部分と捉えて一人ひとりの排泄パターンを把握し取り組んでいる。トイレの移動バーを握ることで握力がつき、立ち上がることで脚力がついて、紙おむつの使用が大幅に改善できた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事に注意をしている。水分が取りにくい時などは、繊維質の入ったゼリーを作ったり、果物ジュース、夜間水分摂取などで対応している。又、排泄時は腹部マッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を希望する利用者には本人主体かつ希望に合わせている。又、各季節ごとに楽しめるように浴槽内に温泉のもとや、花などを入れて対応している。	毎日入浴可能で、利用者の希望に沿った支援をしている。四季に合わせて、ゆず、菖蒲、ポタンの花などの湯を楽しみ、リラックスできたり、大切なコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不安を抱えておられる利用者には、ナースコールの他に鈴を持って頂き、巡視以外でもかけつけられるように安全対策をしている。又、眠前薬は使用しなくてもいいように日中活動を促し、良い眠りに疲れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースファイルの中に薬データが綴ってある。毎日の薬は一週間分セットし、その中から一日分を毎日三回分セットして、すぐ出せる工夫と、確認がしやすいようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が生活上の役割が出来るように職員が先を見越して、自然体で取りかかれるように支援している。又、外出、趣味の活動にも積極的に取りかかってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添った外出に努めている。又他事業所の催し物に参加。昨年からはバス遠足を始めたが、今年は地域ボランティア・専門学校からのボランティア協力で賑やかに行動が出来た。又、天気の良い時などはその日の様子で出かけたりもしている。	畑を作り、玄関をスロープに改築して車椅子でも出やすいようにし、日光浴、外気浴ができるようにした。家族やボランティアの協力を得てバス遠足を行ったり、個別対応の外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者が個人で所有しておられる。ホームに来る外販で好みのものを購入されたり、美容院代を自分で支払われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームから、毎月家族、親戚、友人に向けてホーム便りを出している。よって、手紙が利用者宛てに届いたり、電話がかかってくる、懐かしいものが送られてきたりと、ホームにいてもかかわりが持てている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は担当が、その方の品など家族とともにレイアウトし、季節の移り変わりを利用者を感じてもらえるようにしている。日差しがきついところは、遮光カーテンに替え居心地が良くなるように支援している。	ボランティアの協力を得て作ったタペストリーや、季節の果物や花が置いてあり季節感を感じる。食堂からウッドデッキに出て洗濯物を干すなど動きやすい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの共有空間が狭く一人になれる空間はない。静かな空間が好まれる時は、職員と一緒に利用者の居室でお茶などをしてゆっくり過ごせつように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思いでの品や、使い慣れた家具などを居室内に配置し、又写真などレイアウトし居心地良く暮らせるように支援している。	家族の写真や思い思いの作品が飾られている。使い慣れたタンスや家具が置かれてその人らしい居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーになっている。居室内の家具は地震予防のため壁に金具で固定している。庭も段差を無くし畑の食物にも触れられるように工夫した。季節の野菜を自ら収穫されることもできる。		